達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校定時制課程
1　前年度 評価結果の概要	○一人一人の進路希望実現へ向けてのキャリア教育の充実　○社会性を高めるため取り組みの充実　○個別支援の必要な生徒への対応の充実　○新学習指導要領移行に向けて移行措置の完全実施と研究活動の充実
2　学校教育目標	グローバル化や高度情報化が進む地域社会・国際社会に貢献できる商業人として、必要な知識と技術を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身につけさせるとともに、何事にも自ら考え自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。
3　本年度の重点目標	①「心遣い」の発言や行動ができる生徒を育成する。②分かる授業を目指し、生徒の意欲を高め、確かな学力を育成する。③自分の考えをわかりやすく伝えることができる生徒を育成する。　④地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。⑤働き方改革を推進し、教育の質の向上を目指す。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上	○学びの基礎診断テストの平均GTZ（学習到達ゾーン）が、昨年度より向上した生徒の割合を30%以上とする。 ○主体的で対話的な深い学びとなる授業改善を行う。	・９月を学力定着強化月間とし、国語・英語・数学の15分間の指導を毎日実施する。 ・授業担当者と協議を行い、授業改善の取組について確認する。	B	・学力定着強化月間の指導時間を昨年度から以前の２倍、30分に延長したことで、数値目標30%を達成することができた。しかし、生徒別や科目別では伸び悩んだ生徒がいるなど伸び率が鈍化した。今後は、通常の授業を通して継続した取組を行うことでさらなる定着を図りたい。	B	・学びの基礎診断テストにより達する数値目標は達成することができた。しかし、一部の生徒では学力面で課題を残す結果となった。改善策として、新教育課程の再検討を行った。また、主体的で対話的な深い学びとなるよう各教科でシラバスの見直しも行った。	A	・学習の継続が結果に繋がるので、粘り強い取り組みを続けて欲しい。 ・「学び」は学校卒業後も続いていくことを伝え続けてほしい。 ・数値目標をクリアしていることは評価できる。	教務部
	○資格取得の奨励	○検定取得に対する意欲を高め、検定の合格率80%とする。	・商業に関する科目を選択している生徒に対して検定取得への挑戦を促し、検定合格のための支援を充実させる。	A	・11/14現在2つの検定試験を受験し受験者数16名に対し合格者数15名であり、合格率93.8%であった。今後実施される4つの検定試験でもさらに合格者数の増加を図る。	A	・６回の各種検定試験を実施し、受験者数４６名、合格者数３７名、合格率８０．４％であった。また日商簿記検定等の高度資格にも挑戦し２名が合格した。	A	・資格取得への挑戦は素晴らしい。 ・資格が取得できれば、今後の大きな自信となるであろう。	進路支援部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者を思いやることの大切さに気づく生徒を80%以上とする。	・スクールカウンセラーによる心の授業や、各種講演会を通して、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・性教育に関する講演を実施する。	A	・スクールカウンセラーによる心の授業を5月23日に行い、他者を思いやる大切さに気づいたという感想が多くみられた。 ・性教育に関する講演を実施し、命の大切さを学ぶ機会となった。	A	・スクールカウンセラーによる心の授業を5月23日に行い、　８０%以上の生徒が、他者を思いやる大切さに気づいたという感想を書いていた。 ・性教育に関する講演を実施し、命の大切さを学ぶ機会となった。	A	・自分及び他人の生命を大切に思う気持ちを育むことが大事である。 ・その気持ちを育むためにも、SOSは、遠慮なく出して良いことを伝えていただきたい。	保健部 教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員を95%以上とする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）を年間に２回以上行う。	A	・いじめに対する注意喚起（特に言葉遣い）を全校集会で行った。またいじめ覚知・認知件数は1件あったが、職員による見守りを行った結果、いじめを解消することができた。	A	・いじめに対する注意喚起（特に言葉遣い）を全校集会で行った。またいじめ覚知・認知件数は1件あったが、職員による見守りを行った結果、いじめを解消することができた。	A	・職員間での情報の共有やきめ細やかな対応を良くされていると思う。 ・いじめの早期覚知、認知は大変だと思うが重大な事案になる以前に生徒たちの人間関係に注視していただきたい。	生徒支援部 教育相談
	◎佐賀を誇りに思う教育の充実	◎講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数を80%以上とする。	・本校の歴史や、佐賀の七賢人などについての講演を行う。	A	・今年度は「食育講座・味噌作り」を実施した。 ・「ふるさと佐賀の味を自ら創る。」というテーマのもと、積極的に取り組むことができた。 ・２ヶ月後熟成した味噌の味を楽しみに待ちたい。	A	・今年度実施した「食育講座・味噌作り」の事後アンケートにおいて「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数が80%以上となった。	A	・「郷土を誇りに思う取り組み」として体験型は良い取り組みであると思う。 ・「郷土を誇りに思う取り組み」は、さらに充実させていただきたい。	教務部（担当）
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を70%以上とする。	・ホームルーム活動等で、給食を題材とした指導や食育講話を実施する。 ・「給食だより」「保健だより」、掲示物を活用し情報提供する。 ・担任と連携し、生徒の食習慣や生活習慣を把握する。 ・学校医、保護者、関係機関と連携し、健康教育や保健指導を実施する。	A	・給食の最中に給食を題材としたクイズや食材等の説明を電子黒板を使って実施している。 ・給食だより、保健だよりについては、毎月テーマを決めて作成し、生徒に配布すると同時に本校のHPにも載せている。 ・給食を食べない生徒がいる場合は、各職員が声かけをし、食べない理由や生徒の健康状態を把握するように努めている。 ・学校歯科医による歯科講話を実施した。食生活維持のためには歯が大切であることを学ぶ良い機会になった。	A	・12月に「食育講座みそ作り」、1月に「食育講座お弁当作り」を行った。みそ作りでは作り方や栄養について学び、実際に友人たちと協力してみそを作った。積極的に取り組んでいる様子が見られた。弁当作りでは各自が工夫しながら、ごはんとおかずを弁当箱に詰め、お弁当作りの大変さと楽しさの両方を体験し、生徒に非常に好評であった。 ・給食を食べない生徒の数は、減ってきており、今後も継続した声かけが必要である。 ・生徒からのリクエスト献立を毎月採用し、生徒にとても好評であった。	A	・生徒にとって給食は１日の中で最も大切なものとなっていると思う。 ・給食を通してのの食の大切さを伝える取り組みを丁寧にされていると思う。 ・教職員の皆さんはもちろんのこと、給食室のスタッフの皆さんに対して心より感謝したい。	保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校内LANでの情報共有化や新システムの機能を活用し、業務の効率化を図る。 ・職員会議や分掌会議の時間を設定し、会議の効率化を図る。 ・学校閉庁日を設定する。 ・年間年休取得日数１４日以上の職員の割合５０%以上を目指す。	A	・時間外在校等時間は、全職員の協力のもと、遵守できている。 ・分掌会議、職員会議も資料の工夫等により効率的に実施できている。 ・長期休暇中において、積極的に年休の消化を促進できている。	A	・校内LANでの情報共有化や新システムの機能を活用し、業務の効率化を図ることができた。 ・職員会議や分掌会議の時間を設定し、会議の効率化を図ることができた。 ・年間年休取得日数１４日以上の職員の割合５０%以上を達成できた。	A	・働き方改革、有給休暇の取得は、管理職の腕のみせどころであるが、５０%で満足してはいけないと思います。 ・業務や会議の効率化の積み重ねが実績として表れていると思います。	教頭

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○学校生活への意欲向上	★修学旅行プロジェクトⅠ・Ⅱの実施	★事後アンケートにおいて生徒満足度８０%以上を目指す。	★生徒自身が行き先や日程等について調査、研究し、企画案を作成する。　★修学旅行プランについてのプレゼンテーションを実施し行き先を決定する。 ★修学旅行報告会を実施する。	A	・「総合的な探究の時間」を有効に活用し、　自分達の修学旅行を企画・実施できた。３日間のプランは、計画通りに実施できた。 ・出発前のプランプレゼンテーションもICTをうまく活用でき、よいプレゼンテーションとなった。 ・近々、修学旅行報告会を予定している。	A	★事後アンケートにおいて生徒満足度８０%以上を達成できた。 ★修学旅行報告会については、県教委プロジェクトEから見学していただき、高い評価を得ることができた。	A	・体育祭同様、自主性を育む教育は、積極的に行って欲しい。 ・修学旅行という楽しい行事を企画、プレゼン、実施、報告まで生徒主体で取り組み、良い成功体験となっている。	教務部（担当）
	○キャリア教育の充実	○年度内に卒業予定者全員の進学先及び就職先を決定する。 ○進路意識向上に資する卒業生等の講演や説明会を２回以上開催する。	・担任や生徒や保護者との情報共有を密に行い、各生徒の進路目標に応じた情報収集と情報提供を行う。 ・本校卒業生や学校関係者、ハローワーク等などと連携し、生徒が身近に実感できる講演、説明会を実施する。	A	・卒業予定者７名中、就職希望者６名全員内定することできた。（11/14現在）1名については、卒業までに、外部関係機関との連携を図りながら、就労意識の向上と就労に努める。 ・外部講師を招いた取り組みについて、当初計画どおり実施し、生徒アンケート結果からも概ね成果を上げることができた。	A	・就職希望６名については全員内定した。１名については、関係機関と連携し基本的生活習慣を身に付けながら徐々に就労に繋げることにしている。 ・外部講師による進路指導については、進路意識の醸成が現れており、目的を達成することができた。	A	・相当なご尽力が合ったことと思います。ありがとうございます。 ・卒業生や外部講師の話を聞くことは、就労のイメージが掴みやすいと思います。 ・生活困窮と学力の関係が言われている。生徒の将来が大きく広がる就職、進学支援に引き続き努めていただきたい。	進路支援部
	○ルール・マナー、規範意識の醸成	○ルールやマナーの遵守など、規範意識が高まったと考える生徒を80%以上とする。	・みだしなみ確認を年間3回行う。 ・自己チェックアンケート年間３回行う。 ・その場に応じた言葉が及ぼす影響を伝え、他者に対して思いやりの言動ができるように全職員で指導を行う。 ・情報モラルに関する講演を行う。	A	・「身だしなみチェック」を長期休業明けに２回（４月・９月）に実施。「爪が長い」「前髪が目にかかる」などの改善できた。 ・言葉遣いを注意しているかというアンケートに対して「できている」「まあまあできている」生徒が92%だった。 ・情報モラル講習会（ＳＮＳいじめ問題）12月予定している。	A	・「身だしなみチェック」3回目を1月に実施した。1週間後には全員が改善できた。 ・生徒生活アンケートの3回目を2月に実施した。言葉遣いについては「できている」「まあまあできている」生徒が84%と2回目より減少したため、改めて注意喚起を行った。 ・12月に情報モラル講習会を実施した。各種ネットトラブルに巻きこまれないための心構えや対処法を学ぶことができた。	A	・情報モラル講習会は今後もっと回数を増やすべきかと思います。 ・情報モラル教育は具体事例など自分事とイメージしやすい内容とすることが大切だと考える。	生徒支援部
	○生徒会活動の充実	○生徒会活動での計画準備、役割分担を行い、学校行事の充実を図る。 ○校外ボランティア活動を年間２回以上実施する。	・生徒会活動の実施計画や運営方法を確認、再検討する。（特に体育祭、クラスマッチ、4年生を送る会） ・生徒会を中心に校外清掃、献血や募金活動の校外ボランティア活動を行う。	A	・体育祭、クラスマッチなどの学校行事では、生徒会を中心に計画、準備、実施した。また講演会等での片づけや謝辞等も積極的に行った。 ・後期には、全校生徒での校外清掃ボランティア、また希望者を募った献血や募金を計画している。	A	・新生徒会にかわり、クラスマッチや卒業生を送る会（予餞会）などの運営や進を計画的に進めた。生徒全員が、楽しく参加できる学校行事になるように工夫した。 ・生徒会有志で献血を行い、全校生徒に広げる取り組みを行った。3月には校外清掃ボランティアを予定している。	A	・生徒達の自主性を伸ばすためにはある程度の幅を持って対応していただきたい。 ・「夜の体育祭」開催など生徒が楽しんで参加できる取り組みがされていると思う。	生徒支援部（生徒会担当）
○特別支援の充実	○教職員の専門性の向上と共通理解の深化	○個々の生徒への対応に反映できたと感じる職員８０%以上とする。　○教育相談担当者会を月２回以上実施する。	・毎月の生徒情報交換会を充実させる。 ・教育相談担当者会での情報交換及び共有を充実させる。 ・生徒が職員に相談しやすい雰囲気つくりを心がける。 ・職員研修で専門性の向上を図る。	A	・毎月の生徒情報交換会を行い、共通理解を得ている。 ・教育相談担当者会を毎週行い、情報の共有と必要に応じて管理職や外部機関とつなげた。 ・生徒一人一人と日常的に会話をし、何かあれば相談しやすい雰囲気作りができた。 ・全日と合同での職員研修を行うことができた。	A	・毎月の生徒情報交換会を行い、職員全体に、対応への共通理解を得ることができた。 ・教育相談担当者会を２６回行い、月２回以上を達成できた。 ・生徒一人一人と日常的に会話をし、何かあれば相談しやすい雰囲気作りができた。 ・全日と合同での職員研修を行うことができた。	A	・特別支援分野は、専門性など難しい部分も多い。日常の中で生徒とのコミュニケーションを大切に取り組まれている。 ・日頃の情報共有があれば、回数にこだわらなくてもいいのでは。	教育相談

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育　★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・重点目標②の「わかる授業を目指し、生徒の意欲を高め、確かな学力を育成する。」は、最終評価、達成度がB評価だったので、来年度は、具体的取り組みにおいて、見直し、更なる工夫をしていく必要がある。 ・他の項目については、外部の学校関係者から概ねA評価をいただいているが、生徒の主体的な取り組みについては、さらにレベルアップを図っていきたい。